

早稲田大学 商学部 国語(現代文) 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	60分(現代文1問、古文1問)
特徴・その他	昨年まで出題されていた漢文の問題が、今年は出題されなかった。

〔大問別講評〕

- 評論文。「資本主義」について。出典：大澤真幸『文明の内なる衝突』。
 (本文字数：約 3700 字 = 昨年より約 400 字増加。設問数：12 = 昨年より1問増加。)

小問	難易度	コメント
問一	易	【漢字】3題。同音異字にはふだんから注意する。
問二・ア	標準	【漢字書き取り】「析出」という語を知っていたか。語彙力も問われている。
問二・イ	易	【漢字書き取り】間違えてはいけないレベルの問題。
問三	易	【空欄補充】資本主義に関する基本用語である。
問四	やや易	【傍線部説明】傍線部直前の指示語の指示内容と、傍線部Bの1行前の内容とから判断する。
問五	易	【傍線部説明】傍線部の直後の一文が同義表現である。また「相対化」は重要語句。
問六	標準	【傍線部説明】傍線部の分析、及び、傍線部直前の接続語「つまり」より直前が同義表現であることから判断する。
問七	やや易	【傍線部説明】傍線部中の指示語「これ」が指示している直前の段落の内容から判断する。
問八	やや難	【空欄補充】空欄を含む一文が決め手となる。
問九	易	【空欄補充】傍線部Bの3行前にある。
問十	易	【空欄補充】空欄を含む段落の1・2行目から容易に判断できる。
問十一	易	【傍線部説明】傍線部の直後の一文が理由説明となっている。
問十二	易	【傍線部理解 + 空欄補充】3頁の6行目から始まる段落の内容をおさえる。

〔総合コメント・今後の指針〕

大問一は、「資本主義」をテーマにした評論文。後半がやや読みづらいが、資本主義は多くの高校の教科書や予備校のテキストで取り上げられている頻出テーマなので、それほど抵抗なく読めた受験生が多かったのではないだろうか。設問もほとんどが基本的なものであった。ただ、先入観をもって読んでしまうと、正解の選択肢を見つけにくかったかもしれない。あくまで本文に根拠を求めるといった姿勢で臨む必要がある。ちなみに、問四から問七までの正解はすべて二であった。同じ記号が四連続することに戸惑った受験生がいたかもしれないが、本文に根拠を求めて自信をもって解いた受験生は惑わされなかったであろう。

早稲田大学 商学部 国語(古典) 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	60分(現代文1問、古文1問)
特徴・その他	昨年まで出題されていた漢文の問題が、今年は出題されなかった。

〔大問別講評〕

㊦ 古文。出典：飛鳥井雅有の日記。

(本文字数：約1000字＝昨年より約100字減少。設問数：9＝昨年より1問増加。)

小問	難易度	コメント
問一	易	【文法問題】助動詞「る」の意味が問われている。eは自発。他は尊敬。
問二	易	【文学史】『千載集』は八代集の一つ。撰者は藤原俊成。頻出。
問三・2	易	【文脈把握】「まらうど」は「客」の意。女あるじの住む山荘を訪れたのは誰か。
問三・7	易	【文脈把握】傍線部の4行前から傍線部までの内容から判断する。
問四	標準	【指示語】直前の内容をおさえる。「をやる」までを抜き出したほうが、「さ」にあてはめて自然なつながりになる。
問五	易	【文法問題】「老ゆ」はヤ行上二段活用の動詞。頻出。
問六	標準	【文脈把握】「いたはり」は「疲労・病気」の意。重要古語。
問七	易	【文脈把握】「いなぶ」は「断る」の意。重要古語。
問八	易	【文脈把握】「おとなし」は「年配で物の心得がある」の意。重要古語。
問九	やや難	【内容合致】イは14～16行目の男あるじのせりふと一致。ロは言い過ぎ。

〔総合コメント・今後の指針〕

大問二は、飛鳥井雅有の日記。単語のレベルも低いし、親しみやすい内容なので、読みやすかったであろう。ただ、本文に出てくる「若紫」「未摘花」「須磨」「明石」「漣標」「蓬生」が『源氏物語』の巻名であることを知らなければ読みづらかったかもしれない。文学史の知識もしっかりと身につけよう。設問は、問九以外は容易。とくに問六・問七・問八は、重要古語の意味を知っているだけで解ける。合格するには高得点をとる必要がある。